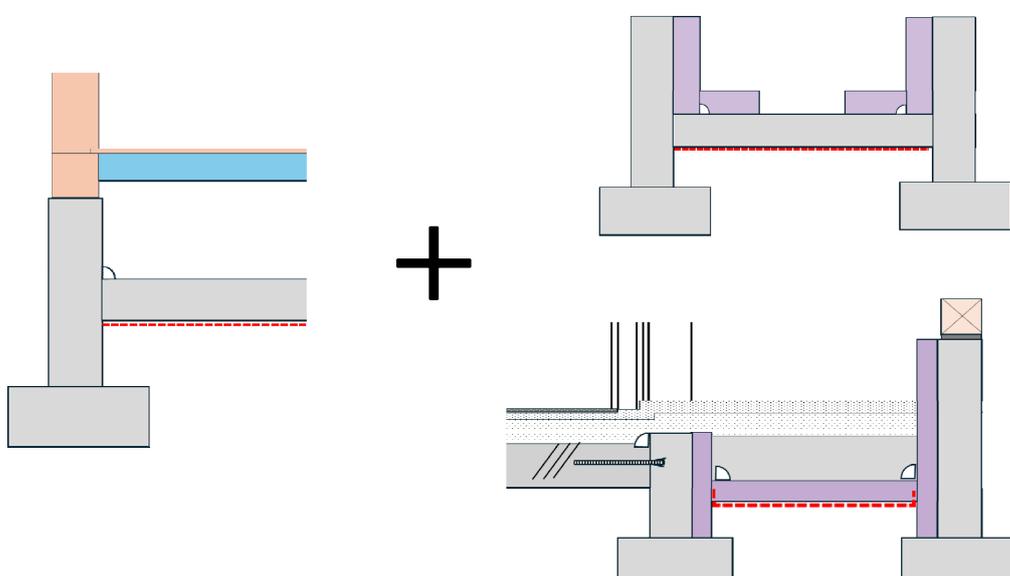


防蟻20年保証 施工要領書

【スタイロフォーム™ 床断熱仕様】

—布基礎編—



発行元：(株)九州テクノ工販
断熱施工技術協力：デュポン・スタイロ(株)
初版： 2026年1月6日

目次

防蟻20年保証 施工要領書 布基礎編
【スタイロフォームTM 床断熱仕様】

項目	頁
シート編 必須専用資材	2
シート編 基礎部	3
断熱材施工編 必須専用資材	4
断熱材施工編 玄関部	5
シート編 玄関部	7
断熱材施工編 ユニットバス部	10
断熱材施工編 床断熱一般部	12
虫返し施工手順	14

防蟻20年保証 施工要領書

一布基礎編一

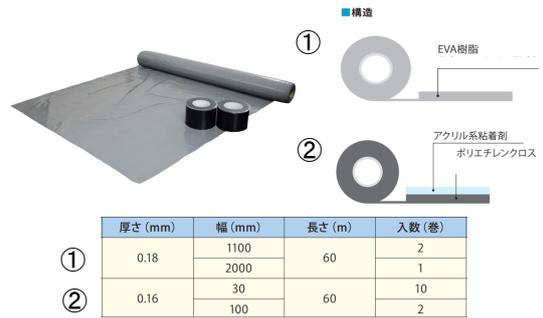
必須専用資材

必須専用資材①②:

- ① 「防蟻防湿シート」
- ② 「防蟻テープ」

- 従来の防湿シートの代わりに敷くだけで、シロアリと湿気をシャットアウト。
- シロアリに対して忌避性・即効性・残効性のすべての性質を持つ薬剤を含浸。

基礎業者様での施工を想定しています。



	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (m)	入数 (巻)
①	0.18	1100	60	2
		2000		1
②	0.16	30	60	10
		100		2



注意事項

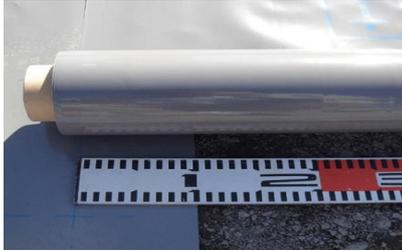
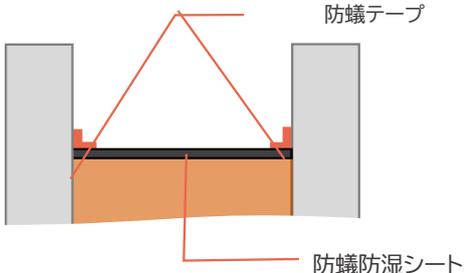
※必ず事前にお読みください。

- 本工法(20年保証)は、従来までの殺虫を基本にした防蟻対策とは異なり、忌避性を基本にした防蟻対策となります、そのため、本施工要領書を十分にご理解いただき、必ず正しい施工方法及び、現場監理を実施してください。
万一、施工不備が確認された場合には、建物が保証対象とならない場合もございます。
- 長期優良住宅認定などの取得要件で、劣化対策等級3を充たす必要がある場合には、別途、「外壁の軸組等の防腐防蟻」として、薬剤処理等が求められます。
薬剤処理にあたっては、本工法(20年保証)の必須専用資材との相性を事前に確認した薬剤にて、専門の防蟻業者にて施工するようにご注意ください。
※防蟻防湿シート、防蟻テープにつきましては、スタイロフォーム™ の購入窓口にお問い合わせください。

防蟻20年保証 施工要領書

一布基礎編 基礎部 -①-

●工事全体の流れ/手順/ポイント

<p>—手順①—</p> <p>写真の様に防蟻防湿シートを基礎底板全面に敷き詰めます。</p> <p>※フーチング下部に防蟻防湿シートは施工不要です。</p>	 <p>(図1: 碎石敷き込み・転圧後)</p>
<p>—手順②—</p> <p>基礎立上り端部までしっかり敷き詰めます。</p> <p>配管貫通部分の継ぎ目には防蟻テープで隙間を塞ぎます。</p> <p>防蟻テープで隙間を塞ぎます。</p> <p>防蟻防湿シートに破れや穴が生じた場合は防蟻テープで補修します。</p>	 <p>(図2: 防蟻防湿シート敷き込み後①)</p>
<p>【重ね代について】</p> <p>防蟻防湿シートは100mmの重ね代で敷き詰めます。</p> <p>防蟻防湿シートのは重ね代部分に防蟻テープを施工します。</p> <p>*注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テープは防蟻防湿シート継目全面に張ります。 ・テープはシートの浮きや隙間ができないようにしっかりと圧着します。 ・重ね代は100mmです。 	 <p>(図3: 重ね代の例 最低 100 mm以上)</p>
<p>—手順③—</p> <p>防蟻防湿シート施工後四方端部に防蟻テープを施工します。</p> <p>防蟻防湿シートと基礎立上りに掛かるように防蟻テープを貼り付けます。</p> <p>防蟻防湿シートを基礎に100mm程度立ち上げ、テープで目張りする方法も可能です。</p>	 <p>(図4: 防蟻テープ施工位置)</p>
<p>※重要</p> <p>防蟻防湿シートを貫通する部分は防蟻テープで補修してください。</p> <p>防蟻防湿シート施工後に雨が降りシート上に水が溜まった場合、雨上がりにシートに穴をあけて排水してください。</p> <p>その後、穴を開けた箇所は防蟻テープで必ず補修してください。</p>	 <p>(図5: 配管貫通部処理方法)</p>

防蟻20年保証 施工要領書

一布基礎編一

必須専用資材

<p>必須専用資材①②:</p> <p>① 防蟻断熱材「スタイロフォーム™ AT」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 防シロアリ性能があり、吸水性が低くコンクリートと同時打込みも可能なので、基礎外側断熱工法に適した断熱材です。 <p>② 防蟻断熱材スタイロフォーム™ AT専用接着剤「AT-02」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 防蟻断熱材スタイロフォーム™ ATを使用した基礎断熱工法の断熱材目地の防蟻措置やコンクリート打ち継ぎ部等の防蟻措置等に用いる接着剤です。 <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">基礎業者様での施工を想定しています。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>スタイロフォーム™ AT 防蟻接着剤 AT-02</p> <p>■物性 JIS A 9521:「建築用断熱材」押出法ポリスチレンフォーム断熱材</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>JIS規格/単位</th> <th>スタイロフォーム™ AT</th> <th>試験法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JIS製品記号</td> <td>JIS A 9521</td> <td>XPS3bA</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>密度</td> <td>kg/m³</td> <td>25以上</td> <td>JIS A 9521</td> </tr> <tr> <td>熱伝導率</td> <td>W/(m・K)</td> <td>0.028以下</td> <td>JIS A 9521</td> </tr> <tr> <td>透湿係数</td> <td>ng/(m²・s・Pa)</td> <td>145以下</td> <td>JIS A 9521</td> </tr> </tbody> </table>		JIS規格/単位	スタイロフォーム™ AT	試験法	JIS製品記号	JIS A 9521	XPS3bA	-	密度	kg/m ³	25以上	JIS A 9521	熱伝導率	W/(m・K)	0.028以下	JIS A 9521	透湿係数	ng/(m ² ・s・Pa)	145以下	JIS A 9521
	JIS規格/単位	スタイロフォーム™ AT	試験法																		
JIS製品記号	JIS A 9521	XPS3bA	-																		
密度	kg/m ³	25以上	JIS A 9521																		
熱伝導率	W/(m・K)	0.028以下	JIS A 9521																		
透湿係数	ng/(m ² ・s・Pa)	145以下	JIS A 9521																		
<p>必須専用資材③:</p> <p>「テクノ防蟻フォーム」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 断熱、気密性能はそのままに防蟻効果をプラス。環境に配慮したノンフロン。 ● 用途に応じてノズルとガンの2仕様で使用可能。 注)ガンは別売りです。 <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">大工様または設備業者(配管回り)様での施工を想定しています。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;">  <div style="text-align: right;"> <p>■施工方法</p>  </div> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>容量 (ml)</th> <th>施工目安 (ノズル使用)</th> <th>入数 (本)</th> <th>付属品</th> <th>有効成分</th> <th>フォーム色</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>750</td> <td>直径20mmで90m</td> <td>12 (15分間可動)</td> <td>ノズル 各1本</td> <td>アセタミブライド (ネオニコチノイド系防蟻剤)</td> <td>オレンジ</td> </tr> </tbody> </table>	容量 (ml)	施工目安 (ノズル使用)	入数 (本)	付属品	有効成分	フォーム色	750	直径20mmで90m	12 (15分間可動)	ノズル 各1本	アセタミブライド (ネオニコチノイド系防蟻剤)	オレンジ								
容量 (ml)	施工目安 (ノズル使用)	入数 (本)	付属品	有効成分	フォーム色																
750	直径20mmで90m	12 (15分間可動)	ノズル 各1本	アセタミブライド (ネオニコチノイド系防蟻剤)	オレンジ																



注意事項

※必ず事前にお読みください。

防蟻防湿シート工法(20年保証)を前提に使用する工法なので、防蟻防湿シート工法以外の工法で使用する場合、20年保証は適用されません。

また、本施工要領書を十分にご理解いただき、必ず正しい施工方法及び、現場管理を実施してください。

万一、施工不備が確認された場合には、建物が保証対象とならない場合もございます。

- 長期優良住宅認定などの取得要件で、劣化対策等級3を充たす必要がある場合には、別途、「外壁の軸組等の防腐防蟻」として、薬剤処理等が求められます。薬剤処理にあたっては、防蟻防湿シート工法(20年保証)の必須専用資材との相性を事前に確認した薬剤にて、専門の防蟻業者にて施工するようにご注意ください。
※テクノ防蟻フォームにつきましては、スタイロフォーム™ の購入窓口にお問い合わせください。

防蟻20年保証 施工要領書

一布基礎編

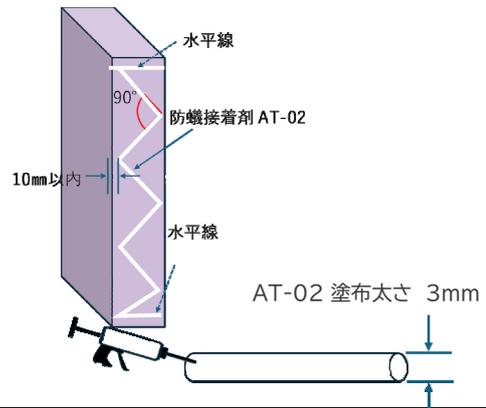
玄関部 -①-

●スタイロフォーム™ AT施工位置

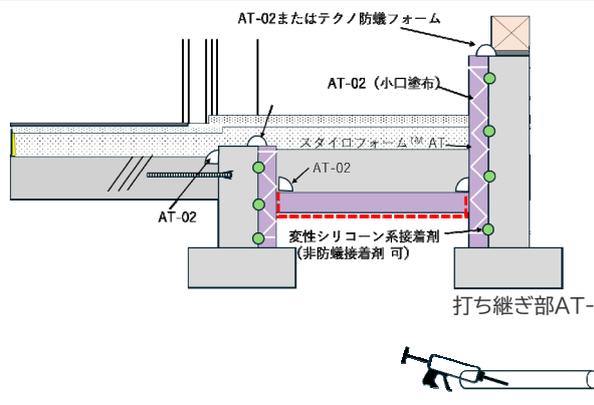
※ 基礎内断熱の玄関部分の断熱材は、必ず防蟻断熱材「スタイロフォーム™ AT」を施工してください。

- ① 基礎外型枠に設置するに際し、断熱材の小口部分に防蟻断熱材をジグザグ状に塗布してください。

塗布要領は左図を参照ください。



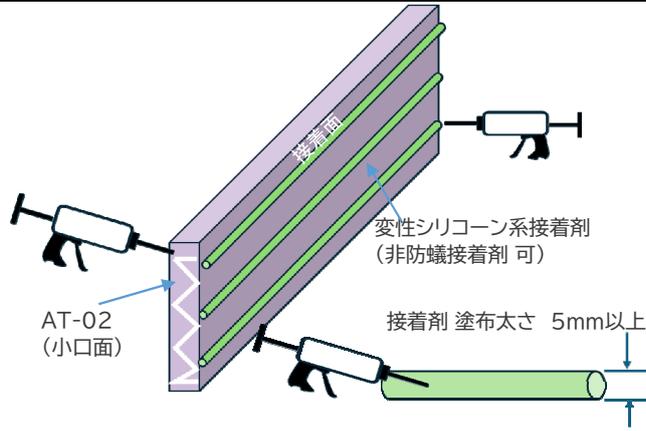
スタイロフォーム™ ATを後張りで施工する場合



- ① 基礎天端と断熱材の合わせ目部分に「AT-02」または「テクノ防蟻フォーム」を施工してください。
- ② 基礎ベースと立ち上がりの打ち継ぎ部分に「AT-02」を施工してください。
- ③ 断熱材の小口の縦目地部分には、「AT-02」を断熱材の幅一杯にジグザグに塗布して、断熱材どうしを貼り合わせてください。

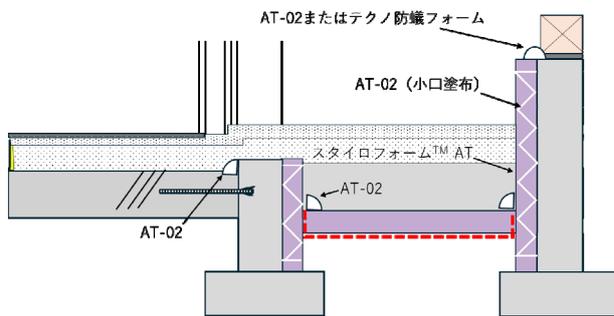


スタイロフォーム™ ATを後貼りする際の接着剤塗布要領



- ① 基礎立ち上がり部に断熱材を貼付ける際には、基礎と密着する面に変性シリコン系接着剤を線状に塗布してください。塗布太さ5mm以上。
- ② 断熱材は、基礎側面に密着する様に、強く押し付けてください。接着剤が硬化するまで、ずれ防止策を施してください。
- ③ 断熱材の小口の縦目地部分には、「AT-02」を断熱材の幅一杯にジグザグに塗布して、断熱材どうしを貼り合わせてください。塗布太さ3mm程度。
- ④ 接着剤の塗布太さは5mm以上とします。コンクリート面に不陸がある場合、接着剤の塗布量を多くしてください。

スタイロフォーム™ ATを打ち込み施工する場合



- ① 基礎天端と断熱材の合わせ目部分に「AT-02」または「テクノ防蟻フォーム」を施工してください。
- ② 基礎ベースと断熱材の立ち上がり部分に「AT-02」を施工してください。
- ③ 断熱材の小口の縦目地部分には、「AT-02」を断熱材の幅一杯にジグザグに塗布して、断熱材どうしを貼り合わせてください。



防蟻20年保証 施工要領書

—布基礎編—

玄関部 -②-

—手順①—

玄関土間部分にも防蟻防湿シートを敷いてください。

手順としては

- ①防蟻防湿シート敷き込み
- ②碎石の埋め戻し
- ③埋め戻した碎石の上に防蟻防湿シートで敷き込み、四隅を防蟻テープで貼りつける。

各工務店様によって、施工手順は変わりますが、玄関部の底盤と一番上に防蟻防湿シートをかぶせ、四隅を防蟻テープで貼り付けてください。



(図7:玄関土間の施工例②防蟻防湿シート敷き込み)

*注意事項

*必ずテクノ防蟻フォーム施工後、施工部位の写真撮影をお願いします。

防蟻保証適用申請の際に写真が必要になります。写真がない場合は、保証申請が出来ませんのでご注意ください。

*施工写真を撮る際、看板ボードに施工日付と現場名を明記してください。

防蟻20年保証 施工要領書

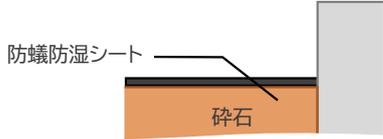
一バタ基礎編一

玄関部 -③-

●砕石埋め戻しの場合の施工手順

—手順①—

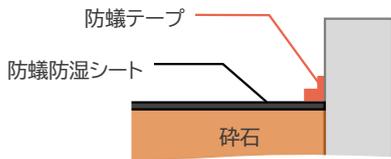
玄関部分に砕石(土砂)を埋め戻します。
* 玄関の埋め戻し部分に防蟻防湿シートを被せます。



(図 1: 玄関部 砕石埋め戻し)

—手順②—

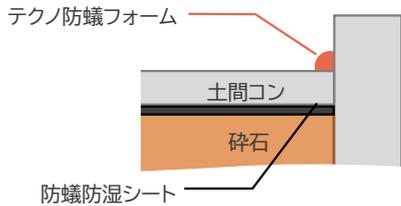
被せた防蟻防湿シートの四隅を防蟻テープで目張りします。



(図 2: 玄関部 砕石埋め戻し後防蟻防湿シート施工)

—手順③—

玄関コンクリートが固まった後、基礎立ち上がりと土間との取り合い部分にテクノ防蟻フォームを施工します。



(図 3: 玄関部 テクノ防蟻フォーム施工)

*注意事項

*必ずテクノ防蟻フォーム施工後、施工部位の写真撮影をお願いします。

防蟻保証適用申請の際に写真が必要になります。写真がない場合は、保証申請が出来ませんのでご注意ください。

*施工写真を撮る際、看板ボードに施工日付と現場名を明記してください。

防蟻20年保証 施工要領書
一布基礎編一
玄関部施工仕様書 保証適用仕様 -④-

●生コンでの埋め戻しの場合の施工手順

<p>—手順①— 砕石はなく、コンクリートで埋め戻しする場合</p>  <p>土間コン</p>	 <p>(図 1:玄関部 コンクリートによる埋め戻し)</p>
<p>—手順②— ①玄関部にコンクリートを流して埋め戻す場合、 玄関コンクリートが固まった後、立ち上がり部分と土間部分との 取り合い部にテクノ防蟻フォームを施工します。</p> <p>テクノ防蟻フォーム</p>  <p>土間コン</p>	 <p>(図 2:玄関部 テクノ防蟻フォーム施工)</p>
<p>*注意事項</p> <p>*必ずテクノ防蟻フォーム施工後、施工部位の写真撮影をお願いします。 防蟻保証適用申請の際に写真が必要になります。写真がない場合は、保証申請が出来ませんのでご注意ください。 *施工写真を撮る際、看板ボードに施工日、現場名を明記してください。</p>	

防蟻20年保証 施工要領書

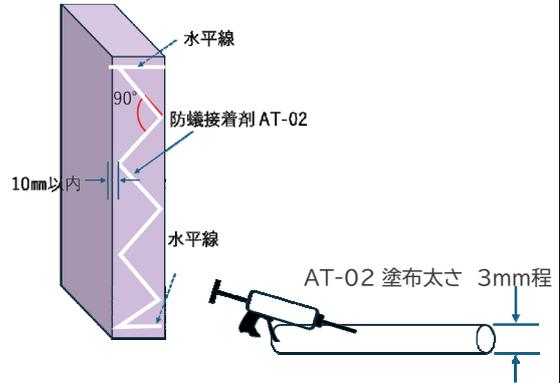
一布基礎編 ユニットバス部

●スタイロフォーム™ AT施工位置

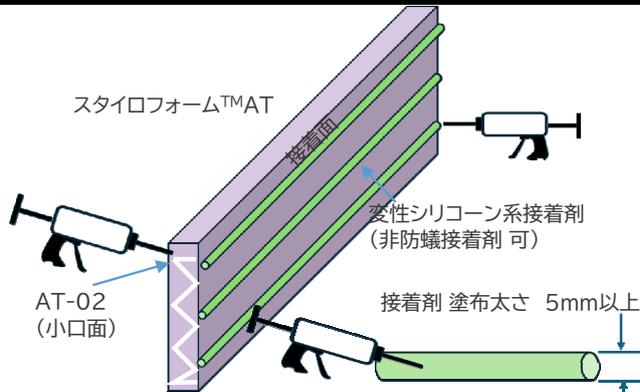
※ 断熱材は、通常の「スタイロエース™ -II」を使用しても構いませんが、
玄関部分・ユニットバス部分は必ず防蟻断熱材「スタイロフォーム™ AT」を施工してください。

防蟻接着剤をスタイロフォーム™ ATの小口面に塗布する要領

- ① 基礎外型枠に設置するに際し、断熱材の小口部分に防蟻断熱材をジグザグ状に塗布してください。
塗布太さ3mm程度。
塗布要領は左図を参照ください。

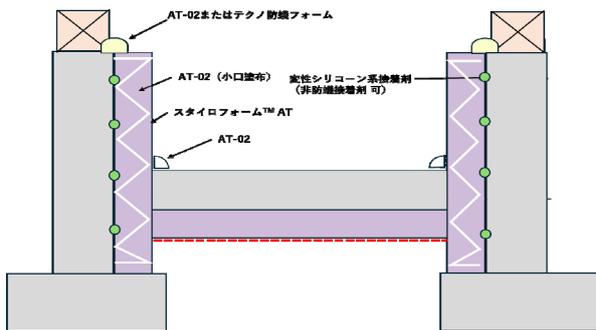


スタイロフォーム™ ATを後貼りする際の接着剤塗布要領



- ① 基礎立ち上がり部に断熱材を貼付ける際には、基礎と密着する面に変性シリコーン系接着剤を線状に塗布してください。
- ② 断熱材は、基礎側面に密着する様に、強く押し付けてください。接着剤が硬化するまで、ずれ防止策を施してください。
- ③ 断熱材の小口の縦目地部分には、「AT-02」を断熱材の幅一杯にジグザグに塗布して、断熱材どうしを貼り合わせてください。
- ④ 接着剤の塗布太さは5mm以上とします。コンクリート面に不陸がある場合、接着剤の塗布量を多くしてください。

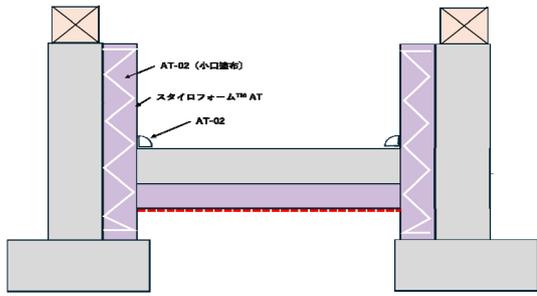
スタイロフォーム™ ATを後貼りで施工する場合(断熱材が押さえてコンクリートを貫通する場合)



- ① 基礎天端と断熱材の合わせ目部分に「AT-02」または「テクノ防蟻フォーム」を施工してください。
- ② 基礎ベースと断熱材の立ち上がり部分に「AT-02」を施工してください。
- ③ 断熱材の小口の縦目地部分には、「AT-02」を断熱材の幅一杯にジグザグに塗布して、断熱材どうしを貼り合わせてください。



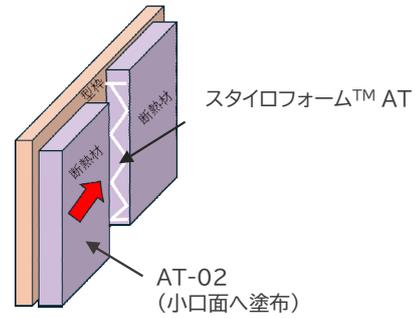
スタイロフォーム™ ATを打ち込み施工する場合(断熱材が押さえコンクリートを貫通する場合)



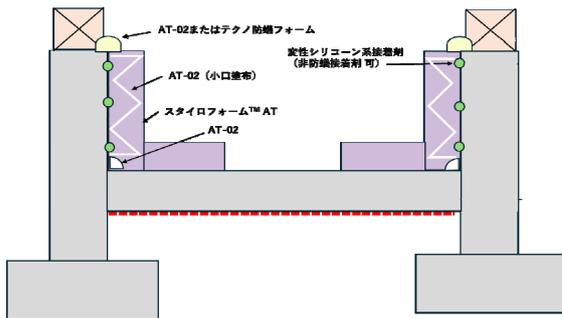
- ① 基礎天端と断熱材の合わせ目部分に「AT-02」または「テクノ防蟻フォーム」を施工してください。塗布太さ5mm以上。
- ② 基礎ベースと立ち上がりの打ち継ぎ部分に「AT-02」を施工してください。塗布太さ5mm。
- ③ 断熱材の小口の縦目地部分には、「AT-02」を断熱材の幅一杯にジグザグに塗布して、断熱材どうしを貼り合わせてください。塗布太さ3mm程度。



- ① 断熱材の小口の部分は、防蟻接着剤「AT-02」をジグザグ状に塗布し、隣り合う断熱材の小口部に密着固定させてください。
- ② 断熱材は、コンクリート打設によりズレが生じないように、強固に固定しておいてください。



スタイロフォーム™ ATを後貼りで施工する場合(断熱材が押さえコンクリートを貫通しない場合)



- ① 基礎天端と断熱材の合わせ目部分に「AT-02」または「テクノ防蟻フォーム」を施工してください。塗布太さ5mm以上。
- ② 基礎ベースと断熱材の立ち上がり部分に「AT-02」を施工してください。塗布太さ5mm以上。
- ③ 断熱材の小口の縦目地部分には、「AT-02」を断熱材の幅一杯にジグザグに塗布して、断熱材どうしを貼り合わせてください。塗布太さ3mm程度。



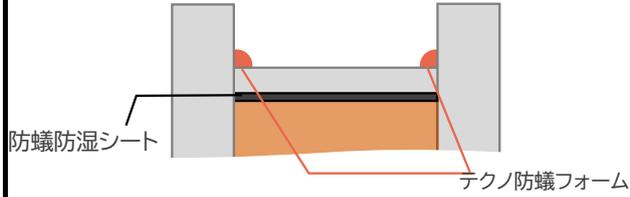
防蟻20年保証 施工要領書

一布基礎編一

床断熱一般部

●テクノ防蟻フォーム施工手順

基礎立上りと防湿コンクリートの取合い部に
テクノ防蟻フォームを施工します。

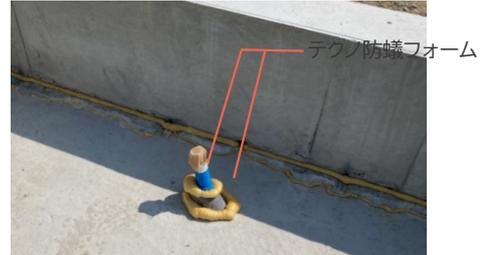


(図8:立上り・防湿コンクリート取合い部に施工)

配管貫通部

配管周りにテクノ防蟻フォームを施工します。

さや管と給水管等の隙間にも
テクノ防蟻フォームを施工します。



(図9:スリーブ・配管隙間に施工)

● 一般部断熱材施工手順

—手順①—

土台敷き完了後、根太や大引きの間に
スタイロフォーム™ はめ込みます。
*根太と断熱材の間は、気密テープで貼り止めします。



(図 1: 根太や大引きの間に断熱材のはめ込み)

—手順②—

断熱材はめ込みが完了したら床合板を敷き込みしていきます。



(図 2: 床断熱材はめ込み後の床合板敷き込み施工)

防蟻20年保証 施工要領書

一布基礎編一

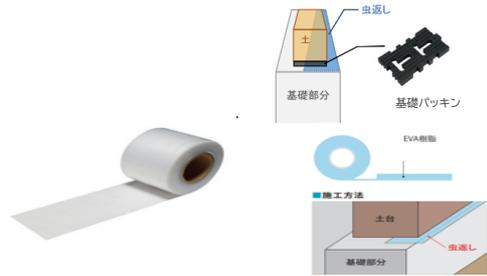
虫返し施工仕様(虫返し施工手順)

必須専用資材③:

「虫返し」

- 従来の防湿シートの代わりに敷くだけで、シロアリと湿気をシャットアウト
- シロアリに対して忌避性・即効性・残効性のすべての性質を持つ薬剤を含浸

大工様での施工を想定しています。



製品	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (m)	入数 (巻)
ターミダンシート 虫返し	0.18	60	60	3

- 基礎の外周天端と玄関土間部分の天端に虫返し(防蟻シート)を貼ります。虫返しには忌避性があるので、白蟻が基礎の外周を伝い侵入が出来なくなります。
 - 対応規格 60mm幅
 - 基礎天端の外周に敷き込みます。**基礎外周から外側に出さない事。**
 - 必ず虫返し施工後、施工部分の写真撮影をお願いします。
- 防蟻保証適用申請の際に写真が必要になります。
※虫返しにつきましては、スタイロフォーム™ の購入窓口にお問い合わせください。

—手順①—

基礎天端の外周に合わせて、基礎外周の天端や玄関土間部分の天端に虫返しを敷き込みます。
※玄関土間部分の天端に虫返しを敷き込む際は、外周部だけでなく、室内側も敷き込んでください。



(図1:虫返し敷き込み)

—手順②—

アンカーボルトに干渉する箇所は、カッターやハサミで切り込みを入れて、干渉する箇所を避けます。

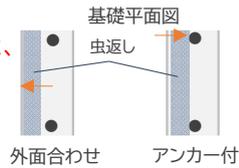


(図2:干渉部分の切り込み方法)

※重要

虫返しは、基礎外面合わせ若しくはアンカー付で、基礎外周の天端に敷きこみます。

※基礎外面から出して施工すると、下からの風の吹上で音が鳴り、苦情の元になる恐れがあります。



(図3:基礎外面合わせ)

—手順③—

敷きこんだ虫返しに養生テープをポイントで貼って、虫返しを固定します。

※固定するテープは防蟻テープでも可

※基礎の外側をテープで止めても問題はありません



(図4:養生テープ貼り付け)

墨出しについて

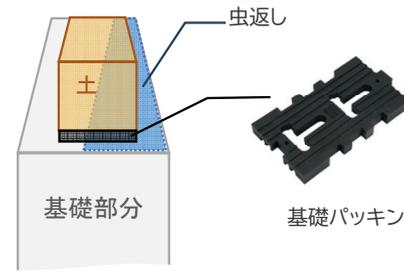
墨出しを行った後に虫返しを施工してください。虫返しは半透明なので、施工後も墨出しの確認は可能です。



(図5:墨出し後の虫返し施工)

防蟻20年保証 施工要領書
一布基礎編一
虫返し施工仕様(虫返し施工後手順)

- ① 基礎の外周天端と玄関土間部分の天端に専用の虫返しを敷きます。
- ② 虫返しを敷き込み後、基礎パッキン、気密パッキンを施工します。
- ③ 基礎パッキン又は気密パッキンを施工後、土台を載せて完了です。



(図1:虫返しの上に基礎パッキンイメージ)

【施工注意点】

必ず虫返し施工後、施工部位の写真撮影をお願いします。

防蟻保証適用申請の際に写真が必要になります。

■注意点まとめ

施工後、施工部位の写真は必ず撮影してください。

防蟻保証適用申請の際に写真が必要になります。

保証申請に必要な写真は、以下の5つになります。

- シート施工の全景写真
- 玄関部の施工写真
- AT-02(防蟻接着材)・テクノ防蟻フォーム施工写真(配管廻り、基礎外周部施工写真)
- 虫返し施工写真
- スタイロフォームTM ATを設置する際の小口部接着剤塗布状況

本保証に関するお問い合わせは、下記もしくは担当営業までご連絡ください。

防蟻防湿シート関連:株式会社九州テクノ工販
電話:092-408-7884
メール: info@9-techno.com

断熱材関連:デュポン・スタイロ株式会社
<https://www.dupontstyro.co.jp/inquiry.php>